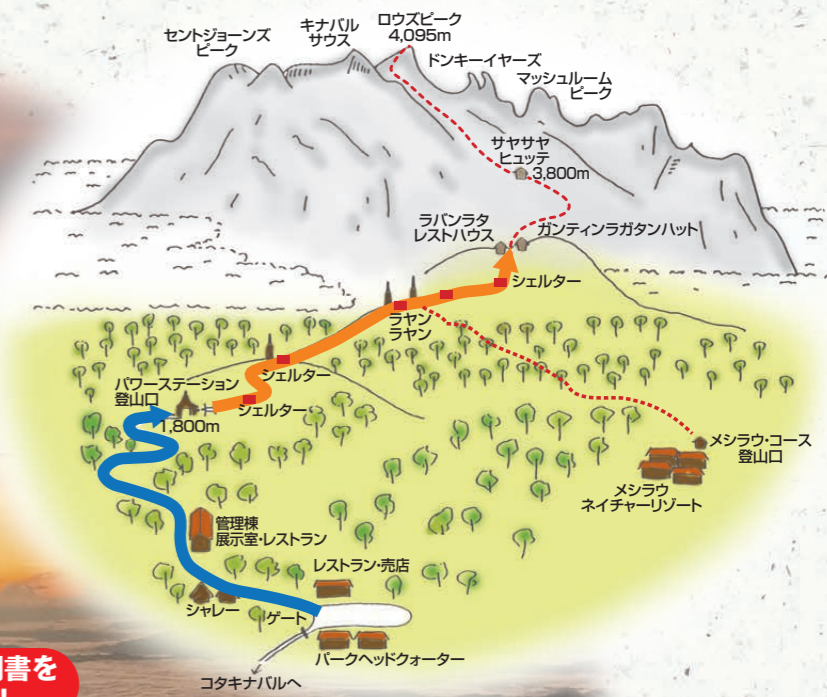


4,000m峰の頂へチャレンジしよう!

マレーシア最高峰キナバル山登頂

赤道直下、南シナ海に浮かぶ世界で3番目に大きな島ボルネオ島。その北部に峻険な岩峰を空に突き上げるように聳えるMt.キナバル(4,095m)は2000年に世界遺産に登録されたマレーシアの最高峰です。登山には山麓に住むドゥスン族のガイドとポーターが同行し登山者の案内や荷運びをしてくれます。登山には特別な技術は必要ありません。ぜひこの機会に4,000m峰にチャレンジしてみませんか?

キナバル登山ルート



キナバル登山の流れ (山中1泊2日の場合)

1 PHQ(国立公園事務所)登山口



コタキナバル市内からPHQまでは専用車で約2時間程度かかります。到着後、地元ドゥスン族のガイドと合流し、ポーターに荷物を預けます(1人5kg)。預ける荷物には防水対策をしっかりと行ってください。登山手続きや、トレイル上で食べるランチパックの受け取り、トイレなどをすませた後、車で約10分ほどのティンポホンゲートに移動します。登山時の服装は天候にもよりますが年間を通してシャツ1枚で歩ける程度です。



キナバル登山の起点となるパークヘッドクォーター(PHQ)

ポーターに預ける荷物はひとり5kgまで



日本から
直行便で
約6時間

1日目

山麓より望むMt.キナバル(4,095m)全景

2日目

2 ジャングルの中を登り山小屋へ



ティンポホンゲート(標高1800m)からいよいよ入山



始めはうっそうとした熱帯雨林を進む



熱帯ならではの独特の植物が多い

ラバンラタの山小屋までは標高差約1,500mを6時間ほどかけて登ります。登山道はよく整備されており、要所には東屋が設けられ、ウツボカズラや野生のランなど、登山道の脇に咲く固有の植物を楽しみながら歩きます。トレイル上には手を使って登るような箇所はありません。

3 ラバンラタ小屋で宿泊



ラバンラタ小屋(標高約3,300m)



山小屋内部の様子



二段ベッドの相部屋が基本

山小屋は標高約3,300m地点に位置しています。この高さまで登ると森林限界を抜け、眼前には岩峰が迫ります。山小屋は快適で、パイキング形式の食事やシャワー、2段ベッドなど翌日の登頂に備えゆっくりとお休みいただけます。補充用の水や飲み物も販売しています。

4 いよいよ山頂へ



本多 直也
(ほんだ なおや)
キナバル手配担当



登山者のヘッドランプの明かり



登山道にある補助ロープ

登頂日はヘッドランプを点けて未明に出発します。前半部にロープを辿りながら登る所が1ヶ所ありますが、その後は特異な形の岩峰群が点在する広大な一枚岩上を歩き、ロウズ・ピークを目指します。山小屋から山頂までは標高差約800mで、特別な登山技術は必要ありません。気温については天気によって左右されますが、3~4度まで冷え込むケースが一般的です。防寒具として雨具の他に薄手のダウンジャケットもザックに入れておくことをおすすめします。

5 4,095mロウズ・ピーク



寺井 信之
(てらいのぶゆき)
サミット倶楽部担当



最高峰ロウズ・ピークはすぐ目の前



Mt.キナバル山頂・ロウズピーク(4,095m)

登頂後は大展望を楽しみながら山小屋まで下山し、朝食後もしくは翌日、標高差約1,500mを下ります。キナバル山は信仰の対象であり、かつては登山を行うことはありませんでした。英国の植民地時代である1851年に植物学者ヒュー・ロウが山頂を目指しましたが、登頂はできませんでした。現在、Mt.キナバルの山頂はロウズ・ピークと呼ばれていますが、これはヒュー・ロウの功績を讃え名付けられています。植物学者でもある彼の研究によりボルネオの植物相が世に知られるようになりました。

登頂者には証明書を
贈呈します!



6 下山後はリゾートでのんびり



愛くるしい表情のオランウータン



サンゴ礁の海でのんびりと(別料金)



下山後はビーチ沿いのリゾートホテルに宿泊

下山後はコタキナバルに1泊し、リゾートを満喫します。美しいサンゴ礁の海に浮かぶ島へのデイトリップや、ワイルドライフパークでオランウータンやマレートラなど固有の動物たちを観察するなど、各種オプションツアー(別料金)をお楽しみください。コタキナバル市内でショッピングや散策などのんびり過ごすのもよいでしょう。